

これから語る話は物語ではなくて実際に起こったことだ。私は小さかったけど経験したことだ。それは1976年の3月18日だった。朝、目を覚ましたら、イコニの町のビシオニ広場で集会があったと言われた。その集会というのは、アリ・ソワリヒの時代にイコナの町を運営していた委員会が、実際には町を苦しめていたことから、計画されたものだった。町はその委員会のことを許さなかった。人々は委員会のメンバーを捕まえて、ンドレニニという場所に閉じ込めた。人々は、メンバーを井戸に閉じ込めたんだ。閉じ込めた後、3月18日の朝、アリ・ソワリヒの軍隊がイコナにやって来て町を包囲した。私は、7歳か8歳だったけど、そのことを覚えている。それから、「ビシオニへ集まろう、ビシオニへ」という呼びかけが起こって、みんなでそこに行くことになった。人々がビシオニに行った後に、軍隊が四方をぐるりと取り囲んだ。私もそこに行こうと路地に入ったけれど、ビシオニ広場の中までは行けなかった。私はそばにいた。私は群集を見たし、すべてを見たんだ。委員会のメンバーの中に、ウスフィジムビという人がいたのだけれど、町の人々が委員会の連中を捕まえた時に彼は逃げる事が出来て、軍隊がイコナに侵入してきた時に、彼は確保された。ビシオニの集会には人々が既に集まっていたが、軍隊が彼を連れて行って、委員会のメンバーを閉じ込めるために捕まえたのが誰かを尋ねた。彼は連れて行かれて言った。「こいつだ、こいつも、それからこいつ」。そこで名指しされた人たちは軍隊に連れて行かれた。ビシオニ広場の中には2つの堰があって、ひとつが主要な方で、もうひとつは大海に面していた。この堰の中央に2人の兵士がいた。人々は、或る者が連行されて、他の者が残されるということを受け入れなかった。そこで、みんなで行く方がいいということになった。この時に、民衆の蜂起が起こったんだ。この時に、マドラサというところに連れて行かれた時に、人々は軍隊に立ち向かったんだ。このウスフィジムビもマドラサに連れて行かれたけれど、勇敢な人々がいて、彼らは、自分たちも一緒に行くと言った。彼らが出発してすぐに銃声がした。軍隊が人々に発砲して何人かが死んだ。12人ほどの人が即死した。その時にはもう、混乱の極みだった。彼らが虐殺されただけではなくて、軍隊は町の有力者を牢に入れるために捕まえた。しかも、モロニで投獄するのではなくて、アンジュアン [コモロ諸島の島のひとつ] の牢屋に彼らを送ったんだ。そこはアンジュアンのホンボという場所だ。拘留期間が終わってからも彼らはそこに留め置かれ、彼らは待っていた。クーデタが起こるまで。その時になって彼らはようやく解放された。これが、その日に起こった出来事について私が証言出来ることだ。